

SIIT 派遣終了報告書

社会システム工学コース
氏名 三好健一

平成18年6月から10月の間、タイ王国タマサート大学シリントン工学部(SIIT)に短期留学したことについて報告書を提出します。

タイの現状

人； 一般にタイ人氣質を代表するタイ語として「マイペンライ」があげられます。意味は「気にするな、大丈夫」ですが、タイ人からは南国氣質の様なおおらかさを感じました。気さくな人が多く、慣れない外国生活を様々な面からサポートしてもらいました。屋台などの小さな店では、店員が友達感覚で接してることが多いです。しかし、大型店になってくると社員教育が行き届いているのか、プロフェッショナルとしての振る舞いをします。

タイは日本と比べ貧富の差が激しく、教育水準にも開きがあるように思います。一般に露天などを出している人はほとんど英語を話せませんが、数字などの商売をするのに必要な最低限の英語は話せます。彼らは観光客相手には一般的な値段の倍以上をふっかけてきます。また、タクシーなどでも料金以上の値段をチップとして請求したりもします。これらのしたたかさは、そうでもしなければ生活できないほどの貧困であると考えます。なぜなら、ふっかけてくる人が裕福な暮らしをしているようには見えなかったからです。逆にデパートなどの、店員にもある程度の教養が求められるような店ではふっかけてくることはありません。

施設； タイで最も強く感じたカルチャーショックの一つにインフラストラクチャーの未整備があります。後進国としては普通かもしれませんが、所々で道路が陥没していることがあります。道路はメンテナンスしなければ壊れてしまうという当たり前のことを痛感しました。そして、歩道が途中で途切れていることがよくあります。これは無計画な都市の発展の影響だと思えます。近年、日本では歩行者の地位向上が進められていますが、タイではまだその段階に達しておらず、一般に歩行者よりも自動車のほうを優先しています。

次にトイレです。施設を評価する際、トイレを見ればその施設のレベルを知ることができると思いますが、デパートなどのトイレは特に問題はありませんでした。しかし、公衆トイレは紙が無く、日本と比べると不衛生さが目立ちました。

社会システム； タイ人はとても国王や王室を尊敬しています。オレンジ色のゴム製の腕輪や黄色のシャツは国王への尊敬の念を表していて、多くの国民が着用しています。国内のいたるところで王室に関する写真が掲示されていて、国王への侮辱は不敬罪で罰せられます。日本人が「国王万歳」を聞くと軍国主義をイメージしがちで、タイへ行く前は私自身あまり良い感じはしていませんでした。しかし、国王を心から尊敬しているタイ人やその文化に接するうちにその素晴

らしさを感じました。それと同時に、日本人として天皇閣下への尊敬の念を忘れてはいけなと感じました。タイの文化に触れることにより、日本の文化に対する誇りや、それを守っていく責任を知ることが出来ました。そして、外国人と接する際に相手の文化を尊重することはもちろん、自国の文化を大切にしなければならなと感じました。

今回の短期留学においてクーデターが発生しましたが、一晩で片がついたので被害は最小限ですみました。このクーデターはほとんどの国民が指示しています。そして、彼らはクーデター以外に現状を打破する方法は無かったとも言います。しかし、いくら国民が指示していても武力による制圧は法治国家として許されるものではなく、クーデター以外で解決できない政治は未熟であると私は考えます。一方で、例え武力に頼ろうとも、現状を打破するだけの国民の政治に対する熱意は日本人も見習うべきだと思いました。日本にも数多くの政治的な問題がありますが、武力を行使するという意味ではなく、例え武力に頼ったとしても問題を解決するという熱意を持った政治家や国民がどれだけいるのでしょうか。日本人の若者を中心とした政治離れが久しいですが、タイのクーデターとは対照的に感じました。

SIITの現状

人； SIIT は Sirindhorn International Institute of technology の略です。インターナショナルというだけあって授業は全て英語で行われ、他の大学と比べて学生はかなり英語が話せます。白人の留学生も多く、特にドイツからは 20 人近く来ているようでした。そして、日本の大学を卒業している教授も多く、日本語を話せる人もいます。学生も日本に行ったことのある人が多く、大阪や東京という地名も有名でした。

英語での会話の際、何とか話すことはできましたが、聞くことが難しいと感じました。SIITの人の英語でもタイ語訛りは多いですが、彼らは聞くことは出来るので会話がきちんと成立します。SIITの学生や職員、教授は大学が終わった後には様々なスポーツを楽しみ、みんなで団欒しながらご飯を食べます。日本人と比べ、大勢で行動することを好み、仲間意識が強いと感じました。私がタイに行ったばかりの頃、右も左も分からない私でしたが食事の際に自然に溶け込むことが出来ました。逆にタイから日本に来た場合に、タイ人は疎外感を感じる人が多いようです。これからは KUT でも積極的に留学生に関わろうと思いました。

そして、最も印象に残ったことが、学生の意識の切り替えのメリハリです。普段は全力で遊んでいますが、テスト前になると一気にテストモードに入ります。遊ぶときは本気で遊び、勉強するときは本気で勉強する。大切なことだと思いました。

施設； 今回の短期留学で、制服を着ることや新入生歓迎会での腕輪交換などの、タマサート大学の伝統に触れることが出来ました。売店には多くのタマサート大学グッズがあり、中でも驚いたのはタマサートティディベアです。学内にはドミトリーの建物群があり、食堂が何箇所もあります。他のキャンパスへ行くためのバスも出ています。無料のシャトルバスやバイクのタクシーもあります。このような巨大な大学に通うのは初めてなので規模の大きさに驚かされました。寮には門限があり、寮生は規則正しい生活をします。KUTの寮との違いを感じ

ました。そして、棟のいたるところにある水飲み場も便利だと感じ、KUTでもウォータークーラーを増やして欲しいと思いました。キャンパス内で週2回あるマーケットでは様々な食べ物や服、アクセサリーが買えます。マーケットのある日は小さなお祭りのような感じで、学生は楽しそうに遊んでいます。